

# がん難民をつくらない

～20年後の高齢社会に向けて、今から準備を～

今後急速な高齢社会の到来が予想されている埼玉県・そしてさいたま市。なんと20年後には75歳以上の方々の増加数が11万1千人あまりにものぼるという衝撃的な予想が人口問題研究所から発表されています。

こうした長寿社会では、国民の2人に1人がかかると言われるがん治療の態勢を整備することが急務です。病院の質・量ともの確保や医師数の充足はもちろんですが、とりわけ、在宅で痛みをコントロールしながら通院治療や往診を受けられるシステムを作ることが欠かせません。今から県は取り組むべきです。

## ●さいたま市(2次医療圏)の人口、20年後

	2010年	2030年	増減
さいたま市人口	1,223,740人	1,172,338人	△51,402人
うち75歳以上人口	91,150人	202,367人	+111,217人

出典:国立社会保障・人口問題研究所 HP

12月議会で↑などをテーマに、高木は一般質問に立つ予定です。ぜひ傍聴へ。



## 県議会は言論を捨てるのか

～請願の本会議討論、原則廃止決まる～

9月議会では、請願について、本会議場での採決前の討論を原則廃止とすることが自民、公明の賛成により決まりました。

議会は本来議論をする場です。県民の皆さんから出された請願は、採択するにせよ、不採択とするにせよ、その理由をきちんと述べ、議論を戦わせることが必要です。これを原則廃止とするなど、議会の自殺行為にも等しいと高木は考えます。

しかし、毎議会類似した請願が出される傾向があり、同じような討論を毎回やるのはいかなものかとの問題提起がなされ、今回「原則廃止」が、民主無所属、刷新の反対むなしく決まってしまうました。断じて許せません。

せめて委員会審査における討論の議事録を公開すべきです。

## 県立医科大学創設を目指し、議員連盟が発足

人口あたりの医師数が全国最下位の埼玉県。安心の医療のためには、医師確保が欠かせぬ課題です。

この問題解決の方法の一つに、県立医科大学の設置があります。県は6月議会で、設立に700億円、その後の経営補填に年間最大65億が必要との数字をあげ、検討しているものの実現は難しいとの見解を示していますが、議員連盟が発足したことで、議会側の設置要望の熱意は高まっています。

ご意見、お待ちしております！

今年の秋はゆっくりやってきているようで、紅葉も遅めだなあと思っている今日この頃ですが、皆さんいかがお過ごしですか。

私は、もうとにかく、十二月議会での初質問の為に、準備に大あらわです。全県的なことをきちんと調査して質問しようとする、やはり、市議時代より準備の範囲が広がって大変だと感じています。

この間、社会保険大宮総合病院の問題でも、色々がんばっています。

また、県議会における慣習には、依然として驚きと発見の多い日々ですが、感度を鈍らせることなく、がんばっていきたいと思っています。

最後になりますが、ぜひ、十二月議会の一般質問、傍聴にお出かけください。よろしく願います！

(高木)